

事業成果報告

防災バッグ ワークショップ

持てる！使える！きみだけの災強バッグ

～教材化プロジェクト～

NPO法人 災強のすけっと

1 課題の把握

防災バッグを用意している家庭の多くは、大人の避難を想定して準備を行っている。

しかし、もし子どもがひとりで避難をしなくてはならなくなったとき、そのバッグを持っていくのは子どもである。

持てる？

大人が持つことを想定されて用意されたバッグは、子どもには重すぎて持てないかもしれない。



使える？

中に何が入っているかわからなかったり、自分にとって必要なものが入っていないければ避難先で防災バッグを使いこなすことができない。



持てる！ 使える！ きみだけの災強バッグ

「重さ」にフォーカスを当て、子どもたちが自分に合った防災バッグについて主体的に考えるワークショップ

持てる！

子どもたちに、自分が持てる「重さ」を体感してもらい、無理のない重さを理解してもらおう。また、そのバッグを持って避難所まで歩くことも想定しなくてはならない。ただ持てるだけでなく、**持って歩ける防災バッグ**を考える。

使える！

一般的な防災バッグも必要最低限のものが入っているが、重さの観点で子どもは、持っていけるものにさらに限りがある。そのため「**自分にとって**」必要なものを考える。

2 目的・効果

災強のすけっとの願い

もっと多くの人へ、多くの場所へ「災強バッグ」を通して防災の輪を広げたい！

現状

このワークショップの手順は我々の頭の中にしか入っていない
我々以外が、1からこのワークショップを実施しようとするのは難しい

災強のすけっとがいないと
ワークショップを実施できない

目的

ワークショップの「パッケージ化」

手順書を作成することで災強のすけっとの頭の中を言語化

- ☀ 災強のすけっとが現地にいなくても同様のワークショップを実施できる
- ☀ 手順書に沿って誰でも簡単にワークショップを実施することができる

ワークショップが継続的に実施されれば、地域全体の防災意識の向上にもつながる

3 事業内容

手順書の作成

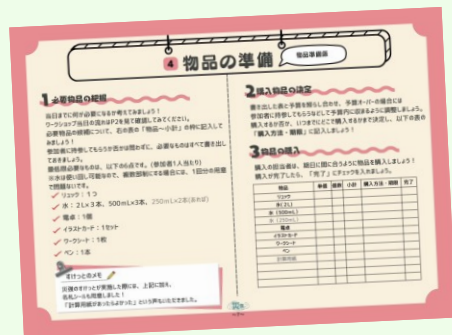
連携
市民協働推進課

誰にでもできる形

事前準備と進行台本の2部構成

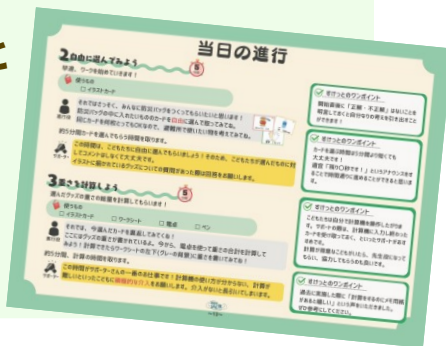
▶ 事前準備編

準備物品・会場設営など、
イベントを開く事自体が
初めての人向けの内容。



▶ 進行台本

ゲーム進行のプロセスを、スクリプトと
共に記載。台本通りに話せば、災強
バッグゲームの進行が可能。



附帯意見反映

ノウハウの共有

過去の事例とポイントとして反映

▶ 過去の事例

事前準備編の参考例として、
過去の事例を掲載。

すけっとのメモ

災強のすけっとが実施した時にかかった費用です！(参加者6名)

項目	金額
会場	0
リュック	0
水	0
電卓(6こ)	5,000円
ペン(8本入り)	660円
名刺シール	110円
計	5,880円

費用を抑えたいときのコツ！
参加者にリュックを持参してもらえば、リュックや会場に
会場は町内会の集会所を使用 にかかる費用は 0円

▶ ポイント

災強のすけっとのワンポイント
アドバイスを掲載。どんなことに
気を付けるとスムーズに進行可能
かのヒント。

附帯意見反映

すけっとのワンポイント

こどもたちは自分で計算機を操作したりしま
す。サポートの際は、計算機に入力が終わった
カードを受け取っておく、といったサポートがおす
めです。
計算が得意なことがいたら、先生役になつて
もらい、協力してもらっても良いです。

3 事業内容

実証実施

連携
減災推進課

協力

- ぐらんりんく（参加者：3～4年生5名、進行：ぐらんりんくスタッフ2名）
- 片平児童館（参加者：10名、進行：片平市民センタースタッフ1名、サポート：児童館スタッフ1名）

実施の様子



左：ぐらんりんく
右：片平児童館



実施者向けアンケート結果 抜粋

難易度：ちょうどよい

○ よかったところ

所要時間の目安が記載されていたところ
ワンポイントアドバイスの記載により、判断に迷った際の参考になる

▲ 改善点

計算スペースが不足していた
名前を書く欄があるといい

その他：防災イベントのブースだけでなく、学童や学校教育でも
使用してみたい

3 事業内容

ブラッシュアップ・教材化

完成した教材セット

持てる!使える!きみだけの災強バッグ

ゲーム進行 **まる分かり** ガイドブック

NPO法人 災強のすけと
2026年2月 第1版

進行の手順書



イラストカード49種



ワークシート

4 市との連携

市民協働推進課

使いやすさ

大学生の言葉から市民に
伝わりやすい言葉へ
…
過去の事例など、実施者が
ほしい情報の掲載

減災推進課

内容の正確性

ワークシートやイラストカード
に関する内容の監修による
専門的な質の担保

マッチング

実証ワークショップのために
減災推進課が過去に連携して
いた団体を紹介・調整

導線設計

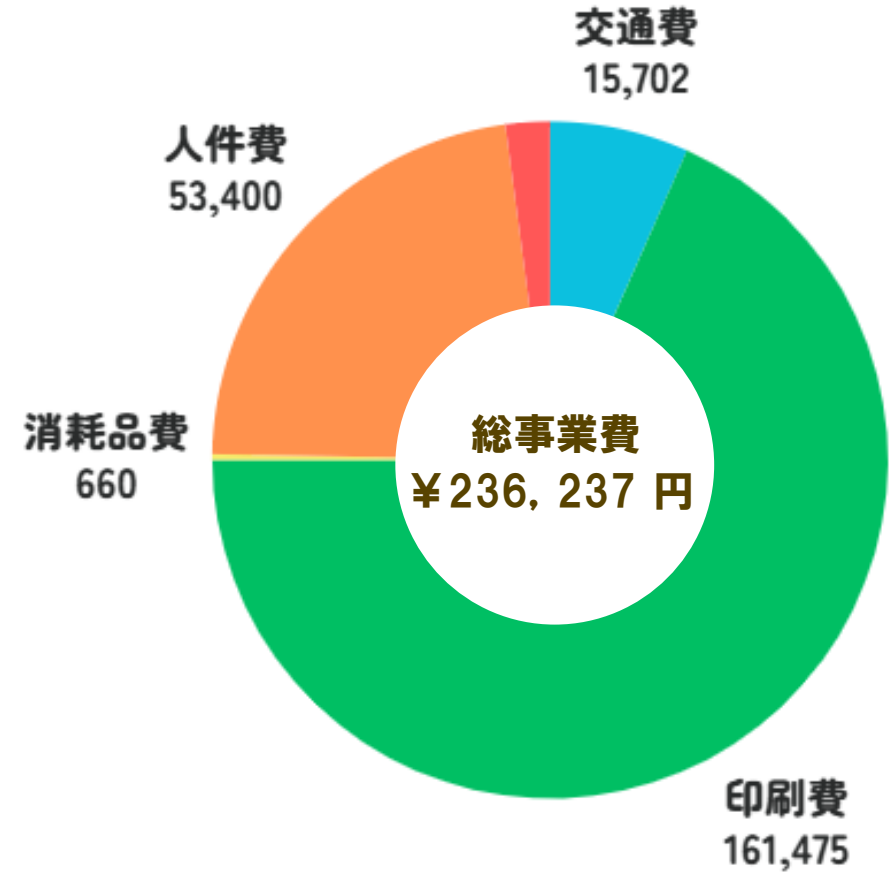
防災バッグを作った後
さらに防災について考える工夫
…
ワークシート裏面のコラムに
ハザードマップを掲載

 教材化の
監修

仙台市のお墨つき

5 費用

印刷費	¥ 161,475 円
消耗品費	¥ 660 円
人件費	¥ 53,400 円
交通費	¥ 15,702 円
保険費	¥ 0円
団体協力費	¥ 5,000 円



本事業にかかる費用のまとめ。

総事業費236,237円

内、仙台市負担金229,600円、自己資金6,637円

6 今後の展望

販売

完成したパッケージ教材を活用し、仙台市内にとどまらず**全国の学校・自治体・地域団体**でも主体的にワークショップを開けるように展開していきたい

新たな災強バッグの検討

オリジナル防災バッグが必要なのは「子ども」だけではない
障がいを持った方、妊婦、お年寄りなどを対象にした災強バッグを検討していきたい

子どもにとどまらず、**防災力向上**は、災害時に自分の身を守る力をつけるうえで重要である。

本ワークショップの内容・手法を **防災環境都市・仙台** から発信し
全国の防災力向上に貢献します。